



# UBIQUITOUS

ユビキタス社会実現に貢献する  
アルファシステムズをもっと知っていただくために

## 第36期 報告書

2007年4月1日から2008年3月31日まで



株式会社アルファシステムズ

# 決算ハイライト

売上高

**25,246百万円**

(前年同期比6.5%増)

当期純利益

**2,158百万円**

(前年同期比18.4%増)

経常利益

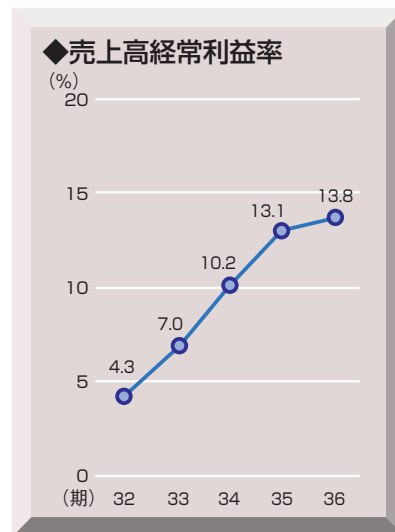
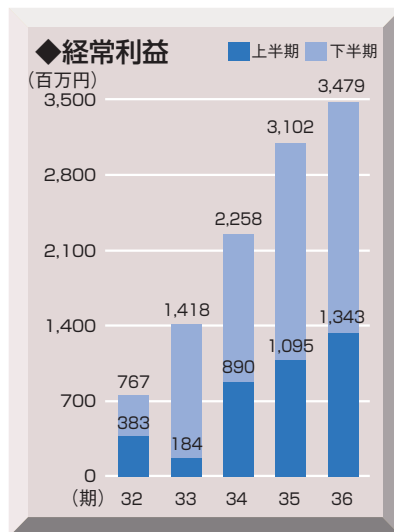
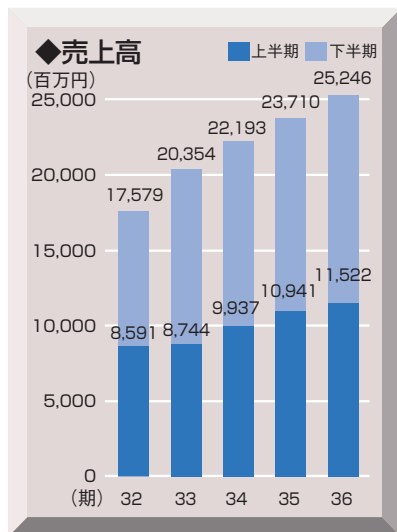
**3,479百万円**

(前年同期比12.2%増)

純資産

**27,189百万円**

(前年同期比6.5%増)





今後の発展の方向を見極め、  
業績向上にまい進してまいります。

## P R O F I L E

代表取締役社長 池田 直明

- 1941年4月 熊本県出身
- 1966年4月 日本電信電話公社(現日本電信電話(株))入社
- 1984年1月 同社基幹交換研究部プログラム技術研究室室長
- 1991年6月 企業通信システムエンジニアリング(株)代表取締役社長
- 1997年9月 エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションウェア(株)  
(現エヌ・ティ・ティ・コムウェア(株))取締役  
ノード系システム事業部長
- 2001年6月 同社取締役ドコモ営業本部長
- 2006年7月 当社顧問
- 2007年6月 当社代表取締役社長就任

**Q** 社長に就任されて1年が経過しましたが、  
どのような所感をお持ちですか？

もともと2年前に非常勤顧問として当社に参りましたが、社長就任のお話をいただき、私なりの貢献ができると思って、お引受けしました。就任以来、以前所属していたNTTグループの各社を回り、当社が通信業界で高く評価されていることもあって、仕事を少し増やすことができました。

一部上場企業の社長は会社の顔としての仕事も多く、想像以上に忙しいと感じております。私のスタイルは上意下達というよりは、みんなの意見を吸い上げ、自分の意見を加味していくタイプです。当社は経験豊かな会長がおりますので、そのサポート役として、また組織の潤滑油として、今のところうまく役割を果たしていると自負しています。

## Q 第36期の経営環境と業績は いかがでしたか？

情報通信業界は、一つ一つを見ると成熟してきていますが、その中で次世代ネットワーク (NGN) のような新しい環境を作ろうという動きがあります。今年3月にはNGNの商用サービスが開始されました。また、モバイル分野では、第3世代 (3G) 携帯電話サービスが広く普及し、新たなモバイル通信サービスの創出に向け、通信事業者とIT企業による提携が相次ぐ一方で、主要携帯端末メーカーの携帯端末事業からの撤退や事業見直しなどもあり、ソフトウェア開発計画の変更や開発費用の抑制が続きました。

このような経営環境の中で当社は、NGN関連開発を中心に受注の拡大を図るとともに、将来的に有望な組込ソフトウェア開発分野で新規顧客の開拓を推進し、受注拡大に努めてまいりました。

この結果、売上高は25,246百万円 (前年同期比6.5%増)、経常利益は3,479百万円 (前年同期比12.2%増)、当期純利益は2,158百万円 (前年同期比18.4%増) となりました。当社が目標としている売上高の前年同期比10%増は達成できませんでしたが、もう一つの目標である売上高経常利益率10%以上は達成することができました。

## Q 今後の通信業界とアルファシステムズの 事業の展望についてお聞かせください。

NGNの商用サービスがスタートし、それをベースにした新たな情報通信サービスの誕生・拡大が期待されます。こうしたサービスの実現のための仕事は、当社のこれまでの事業の延長線上にありますので、実績を生かし、着実にやっていきたいと考えております。また、他社のお手伝いだけでなく、自らサービスを考え、システムを作る、運営に乗り出すという選択肢もあるかもしれません。目を見開けば様々なチャンスがあると思います。

一方、以前は通信事業者が全体を見通し、どのようなサービスを提供するか考えていましたから、その発注を受ける当社も、何年か先まで事業環境が見えていましたが、現在はそれが見えにくくなっている面もあります。当面は、現在の仕事を基本に業績が伸ばせるように事業を進めて行きたいと考えておりますが、今後の経営基盤の安定化の観点から、「組込系」の分野や「業務系」のシステム開発といった、通信関連以外の業務分野や新規顧客へ「業容を拡大」していく必要があると考えています。

## Q 取り組むべき課題について、 どのようにお考えでしょうか。

ソフトウェア開発での最重要課題であるプロジェクト管理につきましては、進捗遅れ、採算割れなどを防ぐ意味で、お客さまとの信頼関係の一層の強化に加え、組織横断的にプロジェクト管理できる体制やシステムを強化していく必要があると考えています。

自社製品につきましては、品質には好評をいただいておりますが、まだまだ認知度が低く、今後、認知度向上と販路の拡大に努めてまいります。

人材育成面では当社はもともと、社員教育に力を入れてまいりましたが、通信業界が大きな転機を迎えている中、社員に新しい知識を身に付けさせる研修の重要度がますます高まっていると認識しております。研修の回数を増やし、これから必要となる技術・知識を教えていきたいと考えております。また、お客さま先で作業に従事している社員も研修を受けやすいよう、ウェブを利用した研修などの仕組みを充実させてまいりたいと思います。



## Q 株主・投資家の皆さまへのメッセージ

当社は、継続的かつ安定的に、業績に応じて配当を実施していくことを基本としております。第36期は1株あたり30円とさせていただきます。また、当社は、従来、年間配当を期末においてのみ実施しておりましたが、株主の皆さまへの利益還元機会を増加させるため、第37期より中間配当を実施することといたします。第37期の年間配当につきましては、普通配当を10円増配し、1株当たり40円(中間配当20円、期末配当20円)を予定しております。

私の使命は、今後の会社の発展の方向を見極めるとともに、社員を元気付け、社員とともに業績向上にまい進していくことであり、またそれが、株主の皆さまに報いる道でも考えております。今後一層、努力してまいりますので、今後とも一層のご指導・ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

代表取締役社長 池田 直明



# もっと知りたい! アルファシステムズ

## 新たな成長軌道確立を目指す — 2008年3月期決算説明会

2008年5月16日、都内で機関投資家や証券アナリストを集め、2008年3月期の決算説明会が開かれました。まず土倉勝美常務取締役から決算概要の説明がありました。

それに引き続き、池田直明社長から、「成長への取り組みと事業環境」と題し、現在の事業環境と一層の成長に向けた中期的な経営戦略が説明されました。事業環境については、次世代ネットワーク(NGN)が今年3月に商用サービスが開始され、現在の開発

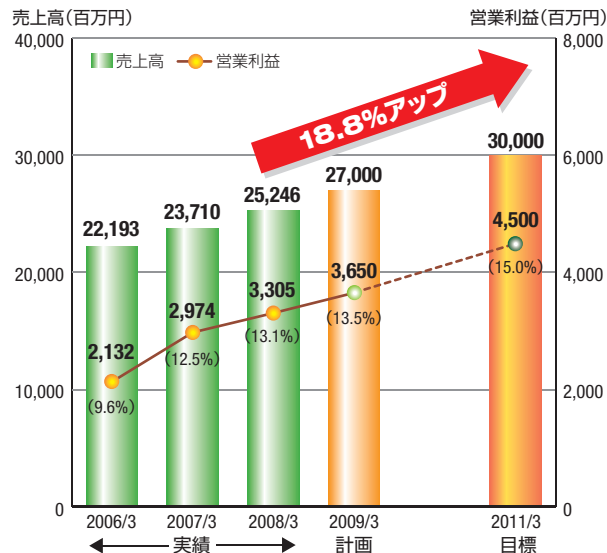
はネットワーク基盤層からサービスプラットフォーム層に移行してきており、当面、NGN関連の開発が中心となる見通しであること、もう一つの柱であるモバイル分野に関しては、通信事業者の新規参入など競争が活発化し、業界全体は活性化している一方で、通信事業者間の価格競争や携帯料金制度見直し、海外メーカー参入など、先行きへの不透明感も高まっていることが説明されました。そのため、当社も開発や契約の短期化、開発計画の変更・中断といった影響を受けており、これらによる稼働率低下リスクをいかに排除するかが当社の経営の重要な課題となっています。

対策として、当社のコアテクノロジーである基幹系通信システムの開発力を活かし、NGNによる市場拡大が予想される情報家電やOA機器への組込ソフトウェアやビジネスシステムアプリケーションといった分野に積極的に進出し、業容を拡大していくこと、また自社ブランド製品・サービスにより新たな収益源となるビジネスの創出を図っていくこと、さらには企業価値を高める組織風土を醸成していくことが、中期的な経営戦略として説明されました。



池田直明社長

## ◆中期数値目標



※(%)は、売上高営業利益率

最後に、通信市場の不透明感とIT業界の採用難から、今後は収益力向上をより重視した経営を行い、3年後の2011年3月期までに、売上高300億円、営業利益45億円の達成を具体的な数値目標に掲げ、「変化の激しいこの時期を、新たな成長軌道を確立する転換期と位置付け、目標達成と会社の継続的な発展に努力していく」と力強く話し、説明の締めくくりとしました。

## 主な質疑内容

**Q** NGN関連の売上は、2008年3月期実績と2009年3月期の見通しでは売上のどれぐらいを占めているのか。

**A** NGN関連の売上は、2008年3月期の実績では、ノードシステムの売上の約3分の1、ネットワークマネジメントシステムでは売上の12%に相当します。2009年3月期は、ノードシステムでは2008年3月期と同様の3分の1、ネットワークマネジメントシステムでは増加して20数%となると見込んでいます。事業環境がよければこれを上回る可能性もあります。

**Q** オープンシステムの売上高は2009年3月期に前年同期比27.7%を見込んでおり、強気の見通しだが。

**A** オープンシステムは基盤系に重点を置いてここ数年事業を展開してきた結果、お客さまとの信頼関係ができ、2008年3月期は前年同期比29.5%の増収となりました。その流れは今期も続き、新たなお客さまとの取引も少しずつ拡大すると見込んでいます。技術と実績を活かし展開していくと同時に、マネジメントを強化し、利益も確保してまいります。

## 次世代ネットワーク(NGN)ってなに？

いよいよ、通信が次世代ネットワーク(NGN)の時代に突入しました。  
NTTグループは2008年3月に初の商用NGNサービスの提供を開始。  
そんなニュースをお聞きになった方も多いでしょう。  
一方で、NGNってどういうことなのか、よくわからない……。  
そんな方もいらっしゃるかもしれません。  
そこでこのページでは、通信ネットワークの明日を開くNGNについてご説明いたします。

### ◆ 様々な通信サービスを一つに ◆◆◆◆

現在提供されている通信サービスにはいろいろなものがあります。昔ながらの固定電話をはじめとして、携帯電話、インターネット(パソコンなど)が主なものです。また、テレビなどの放送も、最近は一セグ携帯で見たり、ケーブルを通じ、パソコンで見たりすることもできるようになっており、通信サービスに近づいてきました。

しかし、こうした様々な通信サービスは、もともと別々に発達したため、お互いの通信網には壁がありました。しかし、考えてみればそれは不思議なことです。なぜそんな壁があるのでしょうか？壁がない方が便利だと思いませんか？

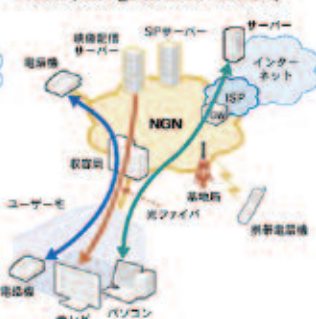
そのような便利を実現するのがNGNです。NGNは、固定電話網や携帯電話網の通信をインターネットの「言葉」であるIP(Internet protocol)でまとめます。これにより大容量ブロードバンドで通信網が統合され、高品質のテレビ電話をはじめ、これまでの通信の限界を超えたサービスが可能になります。NTTグループが提供開始したNGNサービスでも、地上デジタル放送のIP網での提供などが可能になりました。



● 通信事業者の従来のネットワーク



● NGN (next generation network)



ADSL: asymmetric digital subscriber line  
 GW: gateway  
 ISP: Internet service provider  
 PSTN: public switched telephone networks  
 SIP: session initiation protocol

出典：「日経NETWORK」2006年2月号

◆ まだまだ広がるサービス ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

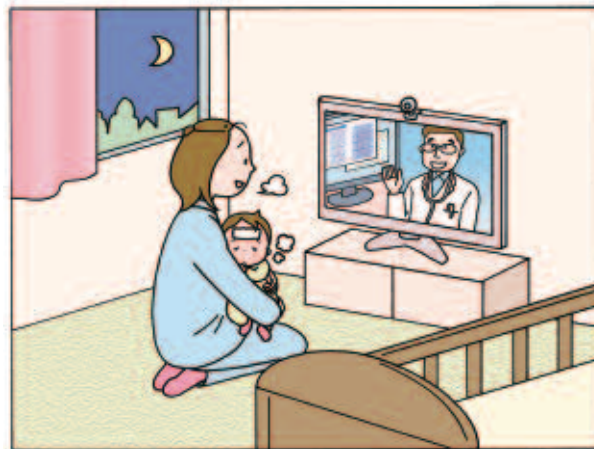
サービスはこれからまだまだ広がります。現在、通信事業者や電機メーカーをはじめ様々な企業がNGNを利用したサービスを開発中です。サービスは、生活のあらゆる場面に広がっていきます。

例えば、ビジネスでは、ハイビジョンを利用したテレビ会議も可能になります。海外にいる相手の顔がまるでその場にいるように見え、資料も細かい字まではっきりと読めます。海外出張の必要もなくなるかもしれません。

家庭では、携帯電話や自宅防犯カメラなどとの連動により、外出中でも、自宅にいるお子さんを、いつでも高品質の画像で確認できるサービスも実現可能です。家電製品と通信との連動により、携帯電話で外出先から自宅のビデオやエアコン、お風呂の湯沸しなどを予約操作したり、テレビの録画を携帯電

話に呼び出して外出先で見られるようになるでしょう。

医療問題の解決にもNGNが一役買うかもしれません。



◆ NGNの「縁の下の力持ち」 ◆ ◆ ◆ ◆ ◆

生活の可能性を大きく広げるNGN。私たちアルファシステムズは、通信専門のシステムクリエイターとして、NGN構築で重要な役割を果たしています。NGNで生活が便利になる時、そこに私たちの仕事が生きています。そう、アルファシステムズはNGNの「縁の下の力持ち」なのです。

# 事業区分別状況

第36期における我が国の経済は、好調な企業収益による設備投資の増加や雇用情勢の改善等に支えられ、緩やかながら回復基調で推移していましたが、米国のサブプライムローン問題等の影響による国際的な金融・資本市場の混乱、原油、原材料価格の高騰等、景気の後退懸念が強まりました。

情報通信業界におきましては、光ブロードバンド・サービスが普及する中、次世代ネットワーク(NGN)の構築が進展し、今年3月末には商用サービスの提供が開始されました。

また、モバイル分野におきましては、第3世代(3G)携帯電話サービスが広く普及し、新たなモバイル通信サービスの創出に向け、通信事業者とIT企業による提携が相次ぐ一方で、主要携帯端末メーカーの携帯端末事業からの撤退や事業見直しが報じられる等、当分野でのソフトウェア開発計画の変更や開発費用の抑制が続きました。

以上のような事業環境の中で当社は、「コアテクノロジーを活かした事業展開」、「新たな収益源となるビジネスの創出」の経営戦略のもと、NGN関連開発を中心に受注の拡大を図るとともに、将来的に有望な組込ソフトウェア開発分野で新規顧客の開拓を推進し、受注拡大に努めてまいりました。

第37期の我が国の経済は、米国の景気減速、原材料価格の高騰が続くと予測があり、景気の先行きに警戒感が広がっております。

情報通信業界におきましては、次世代ネットワークの整備が進展し、新たな情報通信サービス市場が創出され、緩やかながら拡大する一方で、通信事業者間の競争は激しさを増しており、通信機器メーカーに関しましては、今後も事業の選択と集中が進むことが予測されます。

このためソフトウェア開発費の抑制、開発計画の変更、さらには大手ベンダーによるオフショア開発の拡大等、当社の事業環境は厳しさが増すものと予測しております。

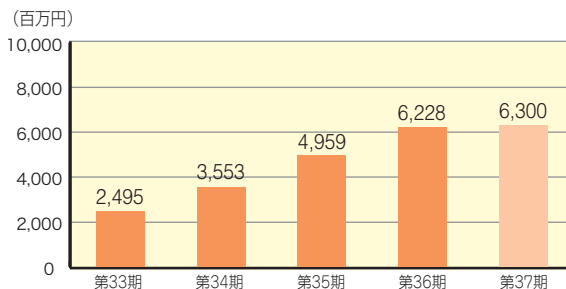
このような状況の中で、次期におきましても増収増益を達成すべく、新たな分野でのソフトウェア開発にも積極的に取り組み、業容の拡大に努めてまいります。

当期と次期における品目別の状況は以下のとおりです。

## ブロードシステム

第36期につきましては、NGN商用サービスの提供開始に向けたシステム開発及びIP-PBXのシステム開発の受注が拡大いたしました。この結果、売上高は6,228百万円(前年同期比25.6%増)となりました。

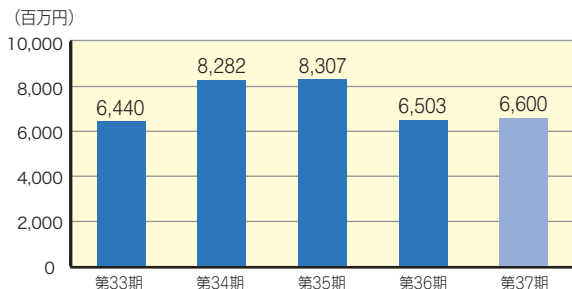
第37期につきましては、NGN関連のシステム開発の受注は堅調な推移が予想されますが、開発の中心がネットワーク基盤からサービス・プラットフォームへ移行していることから、売上高は当期並みと予測しており、6,300百万円(前年同期比1.1%増)を見込んでおります。



## モバイルネットワークシステム

第36期につきましては、ソフトウェア開発計画の見直し及び開発費用の抑制等が影響し、無線基地局関連及び携帯電話端末関連とも受注が減少いたしました。この結果、売上高は6,503百万円(前年同期比21.7%減)となりました。

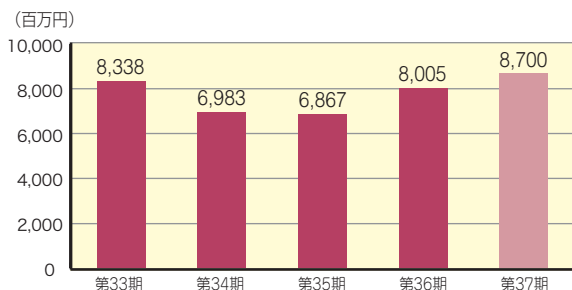
第37期につきましては、次世代モバイル網関連のシステム開発の受注に期待しておりますが、同開発計画は不透明であることから、売上高は当期並みと予測しており、6,600百万円(前年同期比1.5%増)を見込んでおります。



## ネットワークマネジメントシステム

第36期につきましては、NGN商用化に向けたサービス・プラットフォームのシステム開発及びモバイル網向け管理システム開発の受注が拡大いたしました。この結果、売上高は8,005百万円(前年同期比16.6%増)となりました。

第37期につきましては、NGN関連のシステム開発の受注が拡大すると予測しており、売上高は8,700百万円(前年同期比8.7%増)を見込んでおります。

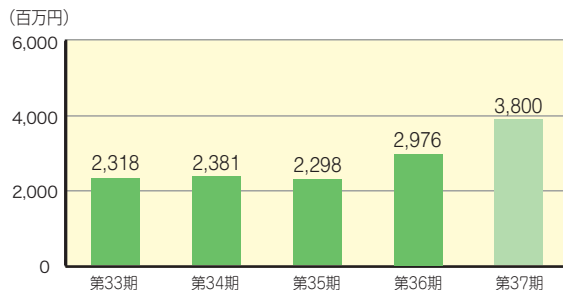


## オープンシステム

第36期につきましては、企業のソフトウェア開発投資の増

加に伴い、企業向けシステム開発の受注が拡大いたしました。この結果、売上高は2,976百万円(前年同期比29.5%増)となりました。

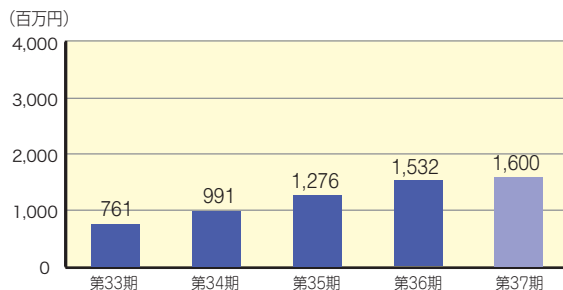
第37期につきましては、企業情報システム及びビジネスアプリケーション開発分野で、新規顧客にも積極的に営業を展開し、受注拡大を図ってまいります。売上高は3,800百万円(前年同期比27.7%増)を見込んでおります。



## その他

第36期につきましては、システム開発要員派遣の受注が増加いたしました。この結果、売上高は1,532百万円(前年同期比20.0%増)となりました。

第37期につきましては、製品販売及びSI案件等の受注は当期並みと予測しており、1,600百万円(前年同期比4.4%増)を見込んでおります。



## 貸借対照表

(単位：百万円)

	科目	第36期 (2008年3月31日現在)	第35期 (2007年3月31日現在)	
資産の部	流動資産	17,333	16,334	
	現金及び預金	10,507	9,362	
	売掛金	5,478	5,659	
	仕掛品	580	733	
	その他	783	601	
	貸倒引当金	△17	△23	
	固定資産	16,350	15,673	
	有形固定資産	10,541	10,255	
	建物	5,404	4,364	
	器具備品	287	199	
	土地	4,762	4,780	
	その他	86	912	
	無形固定資産	73	79	
	投資その他の資産	5,735	5,338	
投資有価証券	3,543	3,557		
その他	2,192	1,781		
	<b>資産合計</b>	<b>33,684</b>	<b>32,008</b>	
負債の部	流動負債	4,836	4,825	
	買掛金	681	615	
	短期借入金	500	500	
	未払法人税等	1,001	866	
	未払費用	1,195	1,278	
	賞与引当金	743	708	
	その他	714	856	
	固定負債	1,658	1,648	
	退職給付引当金	975	963	
	長期未払金	611	614	
	その他	71	70	
	<b>負債合計</b>	<b>6,494</b>	<b>6,473</b>	
純資産の部	株主資本	27,179	25,516	
	資本金	8,500	8,500	
	資本剰余金	8,647	8,647	
	利益剰余金	10,046	8,382	
	自己株式	△14	△13	
	評価・換算差額等	10	17	
	その他有価証券評価差額金	10	17	
		<b>純資産合計</b>	<b>27,189</b>	<b>25,534</b>
		<b>負債純資産合計</b>	<b>33,684</b>	<b>32,008</b>

## 株主資本等変動計算書

(自 2007年4月1日 至 2008年3月31日)

	資本金
2007年3月31日残高	8,500
事業年度中の変動額	
特別償却準備金の取崩	
別途積立金の積立	
剰余金の配当	
当期純利益	
自己株式の取得	
株主資本以外の項目の 事業年度中の変動額 (純額)	
事業年度中の変動額合計	-
2008年3月31日残高	8,500



## 損益計算書

(単位：百万円)

科目	第36期	第35期
	(自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日)	(自 2006年4月 1日 至 2007年3月31日)
売上高	25,246	23,710
売上原価	18,430	17,325
売上総利益	6,816	6,384
販売費及び一般管理費	3,510	3,409
営業利益	3,305	2,974
営業外収益	198	150
営業外費用	23	23
経常利益	3,479	3,102
特別利益	205	105
特別損失	27	55
税引前当期純利益	3,657	3,152
法人税、住民税及び事業税	1,566	1,223
法人税等調整額	△67	105
当期純利益	2,158	1,823

## キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科目	第36期	第35期
	(自 2007年4月 1日 至 2008年3月31日)	(自 2006年4月 1日 至 2007年3月31日)
営業活動による キャッシュ・フロー	2,668	2,936
投資活動による キャッシュ・フロー	△1,028	△2,096
財務活動による キャッシュ・フロー	△495	△470
現金及び現金同等物 に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物 の増加額	1,145	368
現金及び現金同等物 の期首残高	9,463	9,094
現金及び現金同等物 の期末残高	10,608	9,463

(単位：百万円)

株主資本							評価・換算差額等		純資産合計		
資本剰余金		利益剰余金					自己株式	株主資本 合計		その他 有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計
資本準備金	資本剰余金 合計	利益準備金	その他利益剰余金			利益剰余金 合計					
			特別償却 準備金	別途 積立金	繰越利益 剰余金						
8,647	8,647	179	33	3,525	4,644	8,382	△13	25,516	17	17	25,534
			△27		27						
				500	△500						
					△494	△494		△494			△494
					2,158	2,158		2,158			2,158
							△1	△1			△1
									△7	△7	△7
—	—	—	△27	500	1,191	1,663	△1	1,662	△7	△7	1,655
8,647	8,647	179	6	4,025	5,836	10,046	△14	27,179	10	10	27,189

# 会社概要

(2008年3月末現在)

- ◆商号 株式会社アルファシステムズ
- ◆設立年月日 1972年10月11日
- ◆資本金 85億55万円
- ◆従業員数 2,471名

## ◆役員

代表取締役会長	石川義昭	代表取締役社長	池田直明
代表取締役副社長	石川有子	専務取締役	栗原定見
常務取締役	高田論志	常務取締役	亀村 明
常務取締役	小澤純理	常務取締役	土倉勝美
常務取締役	石川英智	取締役	高田俊文
取締役	浅岡 栄	取締役	橋本修一
取締役	佐野雅教	常勤監査役	古賀一範
常勤監査役	霜田淳一	監査役	土屋俊康
監査役	杉本 聰	執行役員	中島正行
執行役員	西村誠一郎		

## ◆事業所

### 本社

〒150-0002  
東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号  
シオノギ渋谷ビル12階  
TEL 03-3486-5111

### 中原テクノセンター1号館

〒211-0053  
川崎市中原区上小田中6丁目6番1号  
TEL 044-733-4111

### 中原テクノセンター2号館

〒211-0053  
川崎市中原区上小田中6丁目8番15号  
TEL 044-733-4111

### アルファテクノセンター

〒211-0053  
川崎市中原区上小田中6丁目10番21号  
TEL 044-733-4111

### 第2アルファテクノセンター

〒211-0067  
川崎市中原区今井上町46番地4  
TEL 044-733-4111

### 第3アルファテクノセンター

〒211-0068  
川崎市中原区小杉御殿町2丁目29番2号  
TEL 044-733-4111

### YRPアルファテクノセンター

〒239-0847  
横須賀市光の丘2番3号  
TEL 046-839-5111

### 横浜ウィング

〒221-0835  
横浜市神奈川区鶴屋町3丁目32番地13  
第2安田ビル 3階、7階  
TEL 045-320-1766

### 北海道支社

〒060-0001  
札幌市中央区北1条西2丁目1番地  
札幌時計台ビル 8階  
TEL 011-210-1111

### 東北支社

〒980-0811  
仙台市青葉区一番町3丁目1番1号  
仙台ファーストタワー 18階  
TEL 022-213-2111

### 北陸支社

〒920-0961  
金沢市香林坊2丁目5番1号  
北國新聞会館 17階  
TEL 076-264-3111

### 関西支社

〒540-6127  
大阪市中央区城見2丁目1番61号  
ツイン21 MIDタワー 27階  
TEL 06-6943-9111

### 九州支社

〒812-0011  
福岡市博多区博多駅前3丁目2番1号  
日本生命博多駅前ビル 6階  
TEL 092-412-9111

# 株式の状況

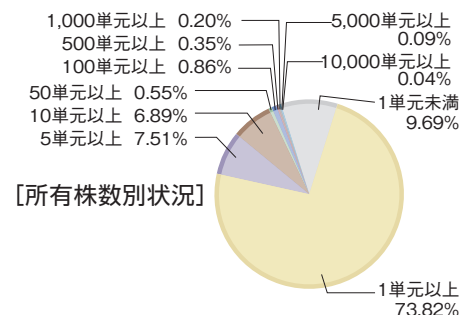
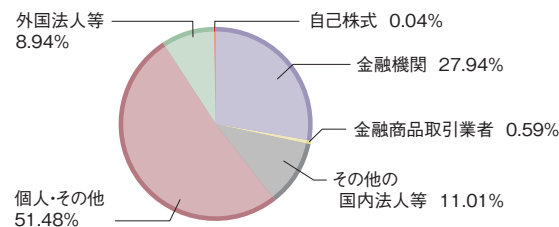
(2008年3月末現在)

- ◆発行可能株式総数 30,000,000株
- ◆発行済株式の総数 12,373,500株
- ◆株主数 4,539名
- ◆大株主

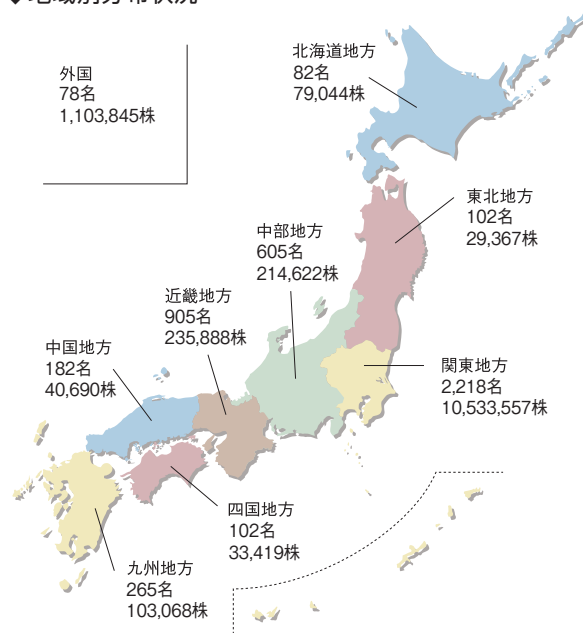
株主名	持株数	出資比率
石川義昭	4,002,150株	32.35%
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	1,023,100	8.27
株式会社オルビック	746,524	6.03
みずほ信託退職給付信託富士通口 再信託受託者資産管理サービス信託	663,240	5.36
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	496,600	4.01
株式会社シー・アール・シー	436,250	3.52
アルファシステムズ従業員持株会	406,788	3.28
石川有子	330,000	2.66
日興シティ信託銀行株式会社(投信口)	173,700	1.40
みずほ信託退職給付信託みずほ銀行口 再信託受託者資産管理サービス信託	156,655	1.26

(注) 出資比率は自己株式(5,095株)を控除して計算しております。

## ◆株式分布状況 [所有者別状況]



## ◆地域別分布状況



## 株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日 3月31日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	〒137-8081 東京都江東区東砂7丁目10番11号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話：0120-232-711（通話料無料）
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店 野村證券株式会社 全国本支店
上場取引所	東京証券取引所 市場第一部
1単元の株式数	100株
公告方法	公告掲載URL <a href="http://www.alpha.co.jp/">http://www.alpha.co.jp/</a> (ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に公告いたします。)

## お知らせ

### ○株式に関するお手続き用紙のご請求について

株式に関するお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求につきましては、上記株主名簿管理人にてお電話ならびにインターネットにより24時間受け付けておりますので、ご利用ください。

電話（通話料無料） 0120-244-479（三菱UFJ信託銀行証券代行部）  
0120-684-479（三菱UFJ信託銀行大阪証券代行部）  
ホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。



# 株式会社アルファシステムズ

〒150-0002 東京都渋谷区渋谷2丁目17番5号  
電話 03-3486-5111(代表) FAX 03-5466-7755  
<http://www.alpha.co.jp/>